

プロジェクト パーシャルスピンの会計処理

項目 本日の審議事項

本資料の目的

1. 本資料は、本日の企業会計基準委員会において検討を行う事項の概要についてご説明することを目的としている。

これまでの経緯

2. 第 498 回企業会計基準委員会（2023 年 3 月 22 日開催）において、「パーシャルスピンの会計処理」を企業会計基準委員会の新規テーマとすることを決定した。
3. 第 102 回企業結合専門委員会（2023 年 4 月 13 日開催）及び第 500 回企業会計基準委員会（2023 年 4 月 26 日開催）以降に行った審議状況は、以下のとおりである。

検討した項目	企業会計基準委員会	企業結合専門委員会
基準開発の範囲		
・本プロジェクトにおける基準開発の範囲	第 500 回 (2023 年 4 月 26 日) 第 503 回 (2023 年 6 月 13 日)	第 102 回 (2023 年 4 月 13 日) 第 104 回 (2023 年 6 月 5 日) 第 105 回 (2023 年 6 月 21 日)
・本プロジェクトにおける例外的な取扱いの範囲	第 503 回 (2023 年 6 月 13 日)	第 104 回 (2023 年 6 月 5 日) 第 105 回 (2023 年 6 月 21 日)
会計処理		
・株式分配実施会社に一部の持分を残す株式分配（以下「一部留保の株式分配（按分型）」という。）を行った場合におけるスピンオフ実施会社の個別財務諸表上の会計処理	第 501 回 (2023 年 5 月 16 日)	第 102 回 (2023 年 4 月 13 日) 第 103 回 (2023 年 5 月 8 日)

検討した項目	企業会計基準委員会	企業結合専門委員会
・一部留保の株式分配（按分型）を行った場合における株式分配実施会社の連結財務諸表上の会計処理	第 501 回 (2023 年 5 月 16 日)	第 103 回 (2023 年 5 月 8 日) 第 104 回 (2023 年 6 月 5 日) 第 105 回 (2023 年 6 月 21 日)

4. 第 503 回企業会計基準委員会での審議を踏まえて、本プロジェクトにおいては以下の方向性で基準開発を進めることとした。
- (1) いわゆるパーシャルスピノフ税制が時限的なものであることから早期に基準開発を完了すべきというニーズを踏まえ、段階的なアプローチを採用して、まずは現実に発生する可能性が高いと考えられるパターンに絞り、完全子会社株式について配当を行い支配を喪失して関連会社にも該当しなくなったファクトパターンに限定して基準開発を行う。
- (2) (1)のファクトパターン以外のファクトパターンに関する審議については、今後、基準開発に関するニーズや ASBJ におけるリソースの状況を踏まえて、審議を行う優先順位を決定することが考えられる。

本日の検討事項

5. 本日は、一部留保の株式分配（按分型）を行った場合における株式分配実施会社の税効果会計についてご意見を伺う（審議事項(2)-2）
6. 関連する企業結合専門委員会及び企業会計基準委員会で聞かれた意見については、次のとおりお示ししている。
- (1) 第 503 回企業会計基準委員会（審議事項(2)-3）
- (2) 第 105 回企業結合専門委員会（審議事項(2)-4）

以 上